

マルタ「EC Malta」での語学研修と旅行

渡辺信也（埼玉県富士見市）

期間：2012年9月29日～10月21日 計33日間

参加者：9名

リーダー：島田貢代

費用：約42万円

航空運賃、授業料、ホームステイ、電車賃、
エクスカーション、ホテル（ローマ、フィレンツェ、ミラノ）、食事その他費用

研修先：EC Malta 校（マルタ共和国）

初めに、私はいまだ英会話初心者域を脱することができず再挑戦の意気込みで、昨年のチェスター校に続きWSCの重要な活動である海外語学研修に参加しました。

英会話力抜群・才色兼備で名を馳せている美女軍団“ビューティーシニアズ”（前ドライフラワーズ）8名に黒一点として再度参加、素晴らしい体験をさせていただきました。

マルタ共和国は、イタリアとアフリカ大陸に挟まれた小さな島ですが、地中海の要衝にあるため多数の民族の侵略を受け、幾多の歴史的要変を遂げました。1964年にイギリス領から独立、マルタ共和国となりました。公用語はマルタ語と英語。

語学研修とエクスカーション 10月1日～13日

当校はマルタ国公認の語学学校で、私達はホームステイし、50+αコース（シニアコース）に参加しました。



Our Class

私達9名、他の日本人、スイス、ドイツ、スウェーデン、スペイン等ヨーロッパ系シニア、総人数約40名で数クラスに分かれ、講師主導のもと、テキストや様々なテーマを中心に **English only** で語り合いました。研修は大変充実したものでした。

午後または終日、学校主催のエクスカーションに参加、各国シニアとの交流を図りました。主な先は、

ヴァレッタ、3寺院巡り、ヴァレッタ港クルーズ、ゴゾ島、ガーデン巡り、ワイン醸造所、エムディーナ、シシリー島（エトナ火山・モディカ街）など。

(1) まず、語学研修で驚いたことは、EC Malta校は学生で満杯（百数十人？）。ヨーロッパ各国から若い学生が来ており、休憩中はロビー、通路、売店、前面道路等が学生でいっぱい。マルタは観光と英会話学校で経済が成り立っていると言われているのも頷けました。

(2) 私のクラスは先生が2人。両名ともエネルギーで丁寧に指導する優しい先生でしたがスピーキングが速く、私はついていくのがやっと。雑念を払って真剣に聞かないと質問を受けた時大変なことになります。2週間、聞くことに注力した結果“聞く耳”が少しできたような気がします。

(3) 50+αクラスは、スウェーデン、ドイツ、スイス、スペイン人が多かったようです。

スウェーデン・ノルウェー人は水泳が大好き。日光浴が狙いか、オプションのエクスカーションには参加せず水泳や海岸散歩をしていました。ロシア人のヴィクトール氏はモスクワでファーマシーを経営、豪快で愉快な人でした。社員は70名、男性は社長（本人）を含め3人のみであとは女性とかで楽しそう、おまけに小企業だから税金はかからず、ライセンスを取るにはマネーがものをいうそうです。まさに和気藹々なクラスでした。

(4) スウェーデン、ドイツ、スイス等ヨーロッパの学生は発音に独特の訛りがあるものの、お互いにわかり合うのが不思議、前回のイギリスのチェスター校と同じ感じでした。

単語一つ一つ発音してもらおうと私達日本人が聞いている英語とは異なる感じがし、“それは英語？”と言いたくなりますが、彼らはお互いに推測しあって理解しているのであろうと思いました。

(5) 宿泊は主にホームステイ方式で、ステイ先に当たり外れがあり学生は悲喜こもごも。私のステイ先は部屋が大きくシャワールームは私専用、ホストマザーは料理自慢で、どの食事も美味。学校からの帰路は坂がきついからといって、自家用

車で迎えに来てくれました。何と幸運なことかと思いました。彼女は美貌の白人女性、難点はスピーキングが速くベランメー調(?)、会話にしがみついていないと振り飛ばされそう。何時も“Ok?,Ok?,Ok?”とせっかちに確かめられ多少わからなくても“Ok,Ok,Ok”と答え問題はありませんでした。新幹線に飛び乗るような速さでした。素晴らしい経験でした。

(6) マルタの首都ヴァレッタは城塞都市で、エメラルド色の地中海を前に古い石造建築物がマッチし、とても美しい街でした。

(7) 語学研修には、研修を通じ国際交流を深めるという大きな役割があると思いました。研修生全員がメールアドレスの交換をし、向後の交流機会を膨らましました。



市内のレストランで

イタリア旅行

英会話研修後の希望者のみのイタリア旅行で、ハプニング続出等珍道中でした。島田貢代さん、中条裕子さん、蔵野朋子さん、宮崎久子さんと私5名で、ローマ、フィレンツェ、ミラノのイタリア3大都市を巡りました。

ローマ観光 10月13日～10月14日

ヴァチカン、コロッセオ、パラティーノの丘、フォロ・ロマーノ、真実の口、スペイン広場、トレヴィの泉など。

フィレンツェ観光 10月15日～10月17日

皮革製品バザール、アカデミア美術館、ドゥオーモ大聖堂、ウッフイッツィ美術館、ヴェッキオ橋、ピティエー宮殿、メデッチ宮殿・ミケランジェロの丘など。

ミラノ観光 10月18日～10月20日

スカラ座、ガレリア・ヴィットリオ・エマヌエーレ2世通り、ドォオーモ大聖堂、スフォルツェス

コ城、サンタ・マリア・グラツイエ教会（最後の晩餐壁画）など。



コロッセオを背景に

(1) 一大発見。各都市をイタリア自慢のユーロスター1等車に乗りましたが、不親切にも、プラットフォームと車両の床の高さに格段の差があり、重いスーツケースを運び上げるのに一苦勞、そして車内の荷物棚に上げるのが更に大変。普段お淑やかと思っていた彼女達の力のあること！火事場の馬鹿力とはこのこと。不思議に乗せた後の痛み等後遺症が発生していません。“いざと言うときには女性は頼りになるもの”ということを発見しました。

さらに、ローマのフィウミチ空港でも実証。私達は構内順路を間違え、国内線の出口から全員何のチェックもなく出てしまいました。しかし、肝心のスーツケースが見当たらず、係員の女性に聞いたら冷たくも代表の島田さんしか再入構が許されませんでした。彼女は遥か遠くにあるカラセルの場所で重いスーツケース5個も手押し車に載せ、延々私達の所まで運んでくれました。彼女は汗まみれ、もともと腰痛の身、さぞ難儀なことと心配しましたが問題なし、彼女はここでも底力を発揮、リーダーの心意気を示されました。頼りになるう！

(2) 女性のショッピング志向は半端ではない！

私は、ある観光スポットに向かって彼女たちを先導しようと思って先に歩き、確認のために後ろを振り返りますと全員消えてしまっているのです。あわてて戻って探しますがどの店にも見当たりません。品物の後ろに隠れているのでしょうか。仕方なく先に戻って暫くしていると三々五々現れます。ひとの心配もよそに！と思いました。何度あったことか。帰国して家内に聞いたら“そんなの女性は当たり前よ”と一蹴されました。今後は喫茶店で珈琲などを飲みながら待つことにしようと思います。ミラノでは歴史探訪ばかりでなく、衣料

品ショッピングも楽しみました。

(3) イギリス・チェスター語学学校で親しくなったマリアさんのミラノの自宅に全員で訪問、彼女手づくりの晩餐を楽しみ、また、同じくチェスター校で親しくなったダニエルさんとミラノ・ドゥオーモで再会、昼食を楽しみました。語学研修を通じてこんな素晴らしい交流を持つとは考えてもいませんでした。



Maria's Dinner Party

(4) イタリアは街全体が古い建物と美しい景色に満ち溢れていました。

古いものを大切にするというイタリアの国民性を実感、感服いたしました。各都市では、表通り・裏通りとも寺院・美術館等古い建物、石畳、公園等が整備され、レンガ色の建物と緑の美しさのコントラストが際立っていました。

特にフィレンツェは大聖堂（ドゥオーモ）を中心に街全体が美術館のようで、歴史の深みと安らぎみtainな優しさを感じました。

最後に、今回の語学研修旅行は33日間と短いものではありませんでしたが、英語力の向上ばかりでなく多くの外国人との交流ができ、美しい風物を堪能でき、実りの多いものでありました。今後も海外語学研修が続きますことを切に望みます。

そして、今回も語学研修・旅行はリーダーの島田貢代さんの多大なご尽力によるものであることを、参加者全員に代わりこの書面をかり、改めて感謝、お礼を申し上げます。